

第四十回記念

正陽会

令和8年12月20日(日)

12時半始(11時半開場)

翁

翁 上野 雄三 三番三 善竹 隆司 千歳 上野 朝彦

面箱 善竹 忠亮 脇鼓 清水 和音 頭取 清水 皓祐 脇鼓 上田 敦史

「翁」

「翁」は「能にして能にあらず」といわれる別格の一曲です。

物語は無く神聖な儀式であり、演者は神となつて天下泰平、国土安穩を祈禱する舞を舞う。

舞台に第一に登場するのは神体の翁面を運ぶ面箱持、それから直面の翁大夫、千歳三番三が続く。

翁は深々と一礼し、面箱が前に置かれると、「とうとうたりり・・・」と謡い出し大君の永遠を祈り永遠の奉仕を誓う。

次に露払役の千歳が颯爽とした「千歳ノ舞」を舞い、御代の長寿幸福と国家安穩を祈念すると、翁が天下泰平を祈念して「翁ノ舞」を舞う。

舞い終わると面を外して面箱に置き、一礼して翁は千歳と共に幕入りする。

続いて狂言方の三番三が走り出て、まず直面で力強い「揉ノ段」を舞う。

その後、黒式尉の面を着けると、鈴を受け取り、鈴を振りながら舞う「鈴ノ段」になる。

呪術的な舞は最高潮に達したところで終止符が打たれる。

狂言「雁磔」

大名が狩りに出かけると、目の前に鴈が居るのでこれを仕留めて土産にしようと弓矢で狙う。

そこへ使いに行く男がたまたま通り掛かり、鴈を磔(小石)で殺して横取りしてしまう。

先に狙っていた大名は怒り、男を呼び止め、その鴈は自分の得物だと言い張る。

男と口論となつたところを仲裁に入った男がある提案をする。

能「道成寺」

紀州道成寺(和歌山県日高郡)では、長く途絶えていた鐘の再興供養が行われることになり住僧(ワキ)は、能力(アイ)に供養の場に女人を入れてはならぬと強く言い渡す。

そこへ一人の女白拍子(前シテ)が現れ舞を奉納したいと能力に願い出で、供養の場に入り込む。

女は独特の拍子を踏み、舞いながら鐘に近づき、ついに鐘を落としてその中に入ってしまう。(鐘入)

能力から報告を受けた住僧が僧侶たち(ワキツレ)に、熊野参詣の修行者に懸想した娘が修行者を追って大蛇となり、道成寺の鐘に隠れた僧を恋の恨みから鐘もろともに焼き殺してしまった出来事を語る。

鐘の中に入った白拍子はその女の怨霊であるうと、住僧たちが祈ると、引き上げられた鐘から蛇体(後シテ)が現れる。

僧侶たちと激しく争うが、ついには祈り伏せられ、恨みを残したまま日高川に飛び入り消えていく。

鴈磔

大名 善竹 忠重

使いの者 小西 玲央 仲裁人 善竹彌五郎

後見 上西 良介

狂言

狂言後見

善竹 隆平 上吉川 徹

休憩二十分

連吟

高砂

篠崎 珠樹 赤井きよ子 前田飛南子 伊原 昇

仕舞

老松 花筐

上野 朝義 大槻 文藏

地謡

今村 哲朗 山本 博通 上田 貴弘 坂口 貴信

舞囃子

観世 清和 観世三郎太

大鼓 守家 由訓 小鼓 久田舜一郎

笛

野口 亮

三山

地謡 大槻 裕一 関根 祥丸

大西 礼久 藤井 完治 山本 章弘

休憩二十分

能

白拍子 蛇体 上野 雄介

道成寺

從僧 喜多 雅人 住僧 福王 茂十郎 從僧 福王 知登

間 能力 茂山千五郎 能力 茂山千之丞

後見 観世 清和 坂口 貴信

地謡

上野 朝彦 関根 祥丸 井戸 良祐 野村 昌司 上野 上田 貴弘 山本 博通 梅若 朝義 赤松 禎友 猶義 大槻 裕一 武富 康之

鐘後見

赤松 禎友 大槻 裕一 大西 礼久 今村 哲朗

狂言鐘後見 茂山 宗彦 茂山 虎真 茂山 茂 茂山 竜正

附祝言

終演予定 十七時半頃